

平成29年度 1月定例会議事録

○ 日時：平成30年1月19日(金) 10:00～11:00 (議事)

○ 場所：梶原町地域活力センター ゆすはら・夢・未来館 1階会議室

出席：農業委員 山本正澄会長、森田呂弥委員、谷川恵美委員

推進委員 中平勝也、上田善啓、岡林勝、高橋正知、川上厚志

事務局 川村幸司、立道直美

山本会長	ただいまから1月の農業委員会定例会を開催します。
事務局	それではまず、委嘱状の交付を行いたいと思います。欠員となっておりました越知面区の農地利用最適化推進委員に12月定例会で川上厚志さんを任命するということに決定しました。任期は1月1日からということですが、1月の定例会である本日の会で委嘱状をお渡ししたいと思います。 会長、よろしく申し上げます。
	(委嘱状の交付)
事務局	川上さんから一言ご挨拶をお願いします。
川上推進委員	わからないことばかりだと思いましたが、皆さんご協力をよろしく申し上げます。
事務局	今月は、3条申請について相談がありましたが、何筆もあるということで、書類の提出が間に合わなかったようで、議案については、何もありません。 報告ということで、農地パトロールの結果についてご報告させていただきたいと思います。 3ページをご覧ください。(資料の説明) 非農地判断について、農地法が改正され、利用状況調査で荒廃農地と判断された土地については、再度の現地確認や所有者の意向確認をすることなく、総会に諮り農地・非農地の判断を行うことができるようになりましたが、一度のパトロールで、非農地と判断してよいものか、従前のおり、所有者への事前連絡や複数名での現地確認をしてから総会に諮るか、梶原町の農業委員会としてどのように進めていくべきか皆さんのご意見をお聞きしたいのですが。
高橋推進委員	荒廃農地と判断しても、次、確認に行ったらきれいに草刈りをして維持管理している場合もある。何年か継続して調査をしてみて、荒廃農地の状態が続いていたら、非農地として判断するようにしたらどうか。
岡林推進委員	周囲はきちんと耕作されている中で、ポツンと真ん中に荒廃農地がある場合があるがやけど、年に1回2回は草刈りしちゅうような感じはある。草だけやなくて雑木まで生えてきて、耕作できんような状態になったら非農地判断するとか、そのあたりの判断が難しい。

山本会長	パトロールの結果、非農地やねとなったら、そこは総会できちんと判断して通知も出さないかんろうね。その時に気をつけちよかないかんのが所有者。農業委員会としては、所有者の意向を、非農地にしてもかまんねということを確認しちよかないかんろうね。
岡林推進委員	非農地の判断をしていくと、農地がどんどん少なくなって荒れ放題になるよね。
高橋推進委員	非農地として総会で判断して、非農地通知したら、その後は非農地の手続きをやってもらおう？
事務局	その後の地目変更の手続きは、所有者さんの判断に任せるしかないのかなと。
高橋推進委員	そうしたら、こっちの現況と、登記の地目が違うようになってくるね。ま。あ、今もそんなところあるけど。そこをもうちょっと整理できたらえいけど。
山本会長	法務省と農水省とそれぞれ管轄が違うき、整理はできんろう。税の関係も、登記簿の地目じゃなく、現況確認での地目になるき。
高橋推進委員	課税台帳と法務局の台帳の地目は一緒になってないが。
山本会長	法務局から登記完了の通知が出た時は、税務係でも確認作業はしゆうけん。例えば、家の横に畑があって、家を増築したりした時に、畑の一部にかかったら、税としては、建物がたっちゅう部分は、宅地、そうじゃないところは畑というふうに判断するよね。
高橋推進委員	自分らも、確認する時は課税台帳を確認するもんね。ここは畑か、ここは宅地になっちゅう、とか。わざわざ法務局まで行って、登記まで見んもんね。
山本会長	農業委員会が調査したこと、台帳が違うっていうのは、何のために調査しゆうのかわからんなるき、そこは整理していかないかん。ただ、所有者に不利益になるようなことはいかんし、所有者も知らんっていうのもいかんろう。
高橋推進委員	もう一回、台帳を整理して、手間でも全部を調査せないかんね。
山本会長	判断基準の統一もせないかんよね。遊休農地で意向調査をして、「自ら耕作する」って回答もあるし、こっちの判断と本人の思いが違うこともある。
事務局	「自ら耕作する」と回答があった人は、「ぜんまいを植えちゅう」とか「柿の木がある」という答えでした。調査の時期によったら、ぜんまいとかは特にわかりづらくて、何もしてないように見えたりするので、ご本人への確認は必要かと思います。 来年のパトロールの前に、地域を絞って、皆さんで現地確認をして、「ここは2やね」とか「ここまでなっちゅうたら3やね」というような判断基準の確認をしたらどうかなと思っています。
山本会長	写真だけじゃ、基準がわからんもんね。
高橋推進委員	農振農用地がどこかっていうのも、所有者はわかってないよね。
山本会長	農振地域の計画は農業委員会がやるがかね。

事務局	計画は町がします。その内容について、農業委員会や農協に意見を聞くようになってます。中山間直払の関係で、農振農用地に入れたところがだいぶあると思いますが、中山間をやめても、農振農用地の除外の手続きをしていなかったら、そのまま残るので、そんなところはいっぱいあると思います。
山本会長	農振地域の計画は、役場の方に任せちゃって、農業委員会としては農地台帳の整理をまずやらんと、毎年のパトロールの結果が反映されてないのはやっぱりいかん。まずはそこをきちんと整理するように。時間がかかるかもしれんけど、きちんとやっていこう。
事務局	来年のパトロールまでには、今までの調査結果の整理等をして準備していきたいと思います。
山本会長	たぶん、みんな今までの農業委員会のイメージのまんまでおると思うけど、いろいろと法律が変わって、課税強化の罰則規定があるらあて、自分も研修に行くまで知らなかった。部落回覧で回しても、みんなそこまで気にして見んき、農地の所有者に年に一回は郵便で出すとか、そこまでせないかんかもしれんね。
事務局	まずは農振農用地の対象の土地に入っちゃう方達にはお知らせしていくように準備したいと思います。
高橋推進委員	中山間に入っちゃう人には、中山間の推進員を通じて、農振農用地の説明とかもしてもらおうたらえいかもしれんね。
山本会長	制度が変わった時は、その都度、みんなに知らせていかないかんね。
事務局	以上で、農地パトロールの結果についての報告とさせていただきます。 次に、梶原町の農業についてということで、この前、会長から梶原の農業について勉強したいというご意見がありましたので、資料を用意しました。 (資料の説明)
山本会長	農業委員会が把握しちゃう梶原町の農家の数っていうのは、どうなっちゃう。
事務局	農業委員会では、農家の戸数については把握していません。先ほどの資料に載っていた、JAに出荷をしている方々と谷川さんや下元さんなど、農協を通さず販売されている方達が、農業で生活をされゆうのかなど。農林業センサスの農家戸数は、田んぼを守るために水稻栽培されている方や家庭菜園をしている方などの自己申告も入ってくるので、農業を営みゆう方達ではないかと思えます。
山本会長	町としても農業委員会としても、農地を守るためにパトロールをやったりしゆうけど、誰のためにとか何のためにとか、今後どうしていくかということを考える上で、現状の把握は大事なことやと思う。 農地を守るっていうても誰のために守るとか、人が減っていく中でどう対策するとか、そのあたりは。

事務局	<p>中山間直払で農地の維持管理をお願いしていますが、現状は「金をもろうてもこたわん」という人もいます。個人での管理が難しくなっている中で、最近では集落営農をしているところも出てきて、地域で農地を守るところもあります。今は、田野々、大野地・影野地、茶や谷でやっていますが、田野々も自分達だけではなかなかようやらんということで、越知面全体で集落活動センターの中でできないかといういろいろ検討しているところです。</p> <p>町としても、将来的には農業公社を立ち上げて、農地の維持管理をしていかないといけないのではないかとということも検討しているところです。</p>
山本会長	<p>そのあたりの話も、我々農業委員会も知っちゃって、農地をどのように守っていくかということを知っちゃかないかんと思う。何が言いたいかということ、行政がどのような施策をするかということの情報がほしいがよ。そういうことを知って、すすまんと、行政はこっちに行って、農業委員会はこっちに行ってということじゃ、連携がとれてないような気がするがよ。それはお互いに非常に無駄なことをすることになると思うがよ。</p>
事務局	<p>そうですね。今までは情報共有や連携はできてなかったと思います。</p>
山本会長	<p>越知面が集落活動センターで、そういうことをやるようになるのはえいことやね。中間管理機構に言うよりも、自分達の身近な人を頼って、維持管理ができるようになったらえいね。実際に機能していくためには大変やろうけど、そこは、行政がどのように支援していくのかっていうことが大切やと思う。</p>
森田委員	<p>昨日、そのことで川上さんも一緒に視察にも行ったけど、なかなか。みんな、嫌々言うてもいかん、誰かがやっついていかんと。残そうと思ったら、やっついていけんしよね。収入はどうかと別にして、土地を維持していくということを先に考えると難しいよね。収入は補助金という形でお願いして、マイナスにはならん形でやっついていかんと。儲けようと思っても、専業でやってもなかなか厳しいところがある。それをこの山奥で田んぼを作って、ちょっとでも儲けようという話はなかなか難しいと思う。でも、みんなが助け合って、なんとかやっついていかないかんと思う。</p>
事務局	<p>町長も変わって、今、方向性をいろいろと考えているところです。</p>
山本会長	<p>町長の考え方とか、今後どんなに考えちゅうとか、情報がわかったらえいね。農業者の支援と農地の維持管理というところでも、現状の把握は大事やと思うき、農家戸数の状況など整理してもらっちゃったら。</p> <p>他には何かないですか。</p>
事務局	<p>事務局からは特にはないです。</p> <p>次回の会の日程についてですが。</p>
高橋推進委員	<p>第3金曜日とか決めたらどう？</p>
事務局	<p>そしたら、基本は第3金曜日ということに決めて、都合が悪い日があったら変更ということに決めていいですか。</p>

山本会長	<p>そしたら、次回は2月16日金曜日1時半からこの場所ということをお願いします。皆さんの方からも、こんなことが知りたいとか、現地調査をしたいとかあれば、事務局に言ってもうろうたらいろいろ調べてくれると思いますので、何かあれば言ってください。</p> <p>それでは、以上で1月の定例会を終わります。お疲れさまでした。</p>
<p>議事録署名：森田 呂弥 谷川 恵美</p>	